

令和7年度ひみ未来づくりミーティング議事録（阿尾地区）

日 時 2025/6/25 19:00～
 場 所 阿尾漁村センター
 出席者 30名
 市長、政策統括監、総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、防災・危機管理監、消防管理監、地域振興課、地域担当職員
 進 行 19:00～19:02 市長あいさつ
 19:02～19:04 出席者紹介
 19:04～19:30 市政の概要について（市長説明）
 19:30～20:23 意見交換
 20:23～20:27 閉会あいさつ 市長、地区代表

質問の内容		回答
1	■阿尾城跡について 阿尾城跡の木々が生い茂り、大変なことになっている。木が倒れてきて、自宅の瓦が割れてしまった。歩道にも倒れてくることもあり、大きな事故になる前に相談したい。令和5年度に文化振興課に行くと、見積を取っているところである。その後、640万ほどの見積もりだったとのこと。その後、地震が起きて進捗していない。	■教育次長 文化振興課がお話を伺っている。もう一度文化振興課と現場を確認するとともに過去の経緯も確認して対応を検討したい。 (対応内容) 市有地部分の木を伐採するために、9月補正に必要な予算を計上しており、今年度中に実施する。 ■市長 住宅にも被害が出ているということでご迷惑をおかけしている。
2	■街灯について 海峰小学校の交差点が街灯がなく危ない。明るければ交通事故が防げると思う。	■市長 街灯の件も確認していく。 (対応結果)現地の状況を確認し、街灯の設置について、街灯(防犯灯)新設にかかる申請書の提出をお願いした。また、当該交差点は右折禁止のため、近くの信号交差点をご利用ください。
3	■女性が戻ってこないことについて 人口の社会減について、女性が氷見に戻ってきていないとのことだが、氷見だけのことではなく、全国で起こっていること。 逆に、女性が戻ってこないということ自体を明確に言うこと自体が女性にとってうんざりすることなのではないか。どうするかということは本当に大事だが、女性にも希望や夢があるはずだから、女性が戻ってこないことが原因だと言うのは再検討してはどうか。	■企画政策部長 女性を無理に氷見に戻したいとは思っていない。女性が戻りやすい環境を整えたいと考えている。本当は戻りたいのだが、何か障害があって戻りたくても戻れない人に対して、障害を取り除くことが重要だと考えている。 ■市長 氷見が魅力的な地域になれば自然と戻ってきてくれるを考えている。土台作りを頑張りたい。
4	■農業について 今回の話の中で農業の話題がなかった。今後10年ほどで水田を作る人は本当にいなくなると思っている。市としてそのあたりをどう考えているか教えてほしい。	■産業振興部長 阿尾地区においてはR6に営農が閉じ、民間に移管したと聞いている。10年後の氷見の農業については市もJAも懸念している。県で経営モデルを検討することになっており、検討してまいりたい。 ■市長 農業について懸念している。10年後、20年後の農業についても戦略、総合計画の中で検討したい。

5	<p>■働く場所の確保について 女性の働く場所の確保は氷見市だけで考えられることではないと思う。昔から高岡市に働きに行く人が多かった。現在は高岡の企業も元気がなくなったことにより一気に流出が進んだように思う。高岡、射水とともに連携して取り組んでいってほしい。</p>	<p>■産業振興部長 高岡、射水と連携して若者・女性が働きたい仕事づくりを検討してまいりたい。</p> <p>■市長 呉西地区でも取り組んでまいりたい。</p>
6	<p>■中央町の解体について 中央町の吉田屋食堂の近辺で3棟ほど解体予定のようだが、その後どうなるのか。</p>	<p>■政策統括監 防災街区のことだと思うが、まずは所有者の方がどうしたいか意見をまとめていただいているところである。私有地であるため、所有者の方の意向が大切である。</p>
7	<p>■氷見駅から阿尾までの交通について 氷見線の本数が増えることはいいことだが、そのあとの氷見駅から阿尾までの交通はどうなるのか。 氷見駅近くの人にとっては便利で良いが、阿尾などは利便性は上がらない。例えば薮田の浅野総一郎像までつながる路線など検討していただけないか。</p>	<p>■企画政策部長 氷見駅への加越能バスの乗り入れについては検討していたが、一般の方と同じ乗入口などから、加越能バスの乗り入れは難しい。 市としても二次交通はとても重要だと考えている。阿尾・薮田もそうだが、現時点でバスが走っていない地域も含めて今後どうしていくか検討してまいりたい。</p> <p>■市長 交通の便がよくなつても駅前自体の利便性が向上しないともつたないと思っている。どこまでできるかわからないが、進めてまいりたい。</p>
8	<p>■周遊バスについて 仙台では定額周遊バスが走っている。氷見も市内全域で走らせてはどうか。</p>	<p>■企画政策部長 市街地は怪物くんバスが走っているが、市内全域となると、採算性の面から難しい状況である。</p> <p>■産業振興部長 土日のみなど、観光の分野で検討してまいりたい。</p>
9	<p>■浅野総一郎について NHKのブラタモリで浅野総一郎について触れていた。浅野総一郎の観点でもっとPRを</p>	<p>■市長 浅野総一郎を起点にした広がりを検討してまいりたい。</p>
10	<p>■バスについて 射水市では10人くらいの小さい規模のものが頻繁に走っている。 加越能バスだけに頼らずできないか。</p>	<p>■企画政策部長 射水市ではコミュニティバスとして走っている。射水市は大学、高校があり、住民を乗せて走っている。 氷見市では番屋街、市民病院、まちなかを中心に走っている。便数が少ないところ、走っていないところをどうしていくかを現在のNPOバスの活用も含めて検討してまいりたい。</p>

11	<p>■風通しのよい組織づくりについて 女性について、今日の会合についても女性は市の職員のみ。計画を検討するのも男性が多い。県の職員からも氷見は男性が多く旧態的であると話していた。また、縦割り社会である。氷見のような封建的な社会では若者が意見を言えず、生きやすいところに出ていくと思う。 風通しのよい組織づくりを目指して欲しい。東北ではあえて60歳以上を排除して取り組んでいる事例などがある。</p>	<p>■企画政策部長 今回、第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定において、若者・女性を中心とした部会というものを作った。この部会では若者が自由に意見を言える雰囲気づくりの中で行っている。 市民に対するアンケートでは、職場、社会通念で男性の考えが中心になっているが多いとの結果である。市としてもそのような状況を解消したいということで、アンコンシャスバイアス解消の研修会を行う予定にしており、若者・女性に選ばれる地域を目指したい。 また、市内でも移住者の方が頑張っている地域がある。</p> <p>■市長 知り合いの女性に会合に出てもらうように促すが、遠慮される。女性が参加しやすい環境を作りたいと考えている。明日すぐ変わるというわけにはいかないが、少しずつ変えてまいりたい。</p>
12	<p>■阿尾川の補修について 昨年の林市長のふれあいトークの際に市職員の対応について要望したところだが、阿尾川の補修について道路課とふるさと整備課に依頼したが、どんどん悪くなっている。 また、道路課に水路防護柵を直すようにお願いしているがまだ直っていないので、お願いしたい。</p>	<p>■建設部長 明日、現地を確認して対応いたしたい。 (対応結果)現地の状況を立会確認させて頂いた結果、市道阿尾島尾線の防護柵につきましては損傷している支柱間の修繕を実施した。</p>
13	<p>■震災の道路復旧について 震災の道路復旧の状況を知りたい。北八代はまだ治っていない。斎場に向かう道の段差が激しい。バイクの交通量が多く、非常に危ない。</p>	<p>■建設部長 阿尾地区全体においては災害査定箇所3か所あり、応急については対応しているが未着手で、また現場を確認いたしたい。農道については6箇所あり、未着手については1件。下水道700mの復旧が終ったあと、道路の復旧に進む。 (対応結果)現地の状況を立会確認させて頂いた結果、市道北八代堀田線につきましては段差の解消、北八代1号線につきましては沈下・亀裂などを修繕する。</p>
14	<p>■上庄川の河川の対応について 会社の近くに大きな穴が開いている。知り合いの土建会社に相談したが、対応は無理と回答された。上庄川が近くにあるため、どんどんずれていき、工事しても対応しきれないとのことである。 上庄川の河川の対応が昔ながらのままになっている。</p>	<p>■建設部長 氷見土木河川班に早急に対応するように依頼する。 (対応内容) R7.6.26(木)氷見土木河川班に状況説明済み。工事予定などは河川班より直接連絡を行う。</p>

■まちづくりについて

- ①「魅力的な地域をつくる」について、氷見は何を核にして魅力的な地域にするかをお聞きしたい。氷見線・城端線が一本化するなら、その機会を利用してまちを活性化してほしい。富山市のように乗り物でまちを活性化していくのか、氷見に来たら住みやすく、健康寿命が長く、生きやすいまちにしていくのか。それとも氷見は食のまちとしていくのか、まちづくりの核となるものをどこに置くのか、2~3人だけの意見ではなく、市民全体から意見を聞いてほしい。
- ②氷見市だけで意見を出すということは無理なのではないか。全国にも参考にすべき事例があるのではないか。鳥取県境港市などはまんがのまちになっている。参考にしてはどうか。
- ③藤子A先生の作品について後世に残していくことも大事かと思う。

■企画政策部長

- ①まちをどうしていくかというのはみんなで考え、みんなでしていくことが大事だと考えている。広報ひみ7月号などでも意見を募ることとしている。みんなの意見を集めて、とがった、他にない戦略を作りたいと考えている。
- ②先進的な事例を参考にしながら取り入れて行ってまいりたい。
- ③藤子A先生の作品を活かし、市街地を中心にまちづくりを進めている。